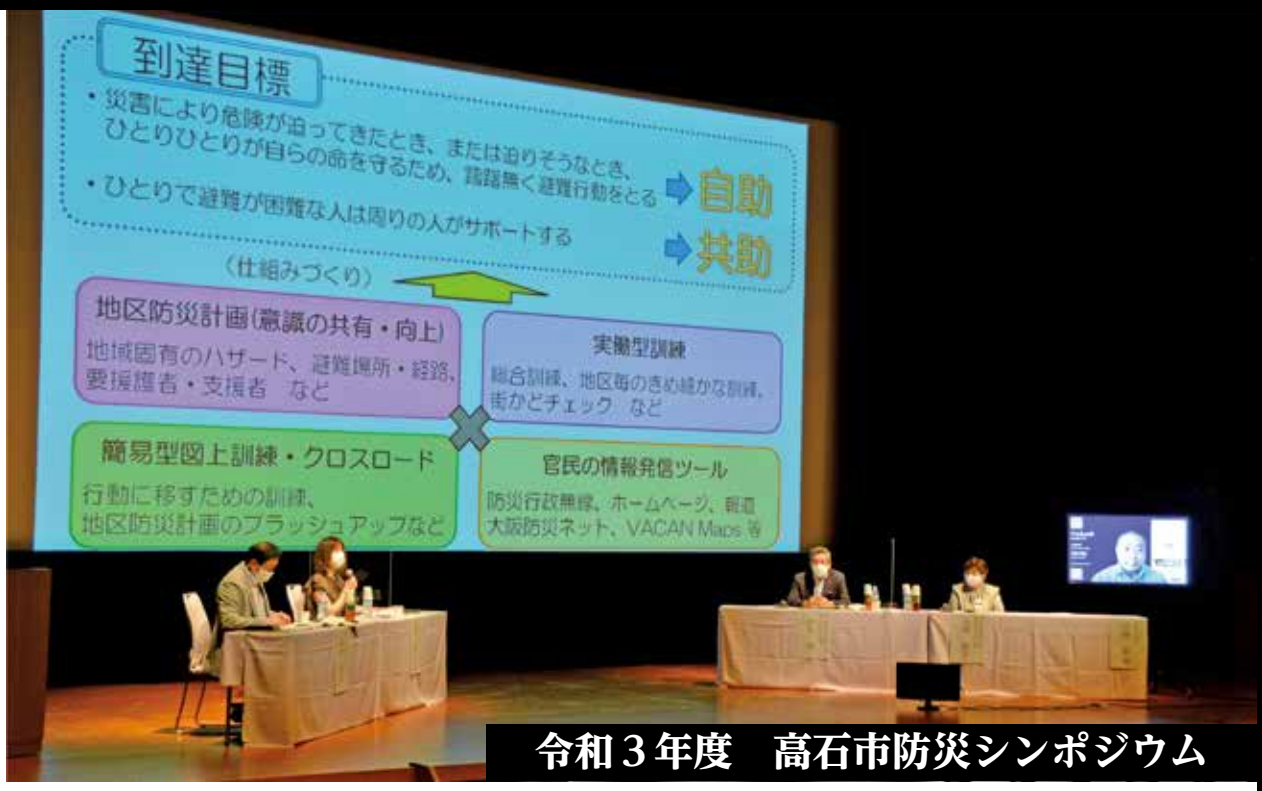
自分の命は自分で守り　助けが必要な人を地域で守る



令和３年度　高石市防災シンポジウム

８月３１日、今回で１０回目となる防災シンポジウムを開催しました。第１部では「複合化する災害から命を守る」をテーマに、兵庫県立大学大学院の阪本教授による基調講演、第２部では「自分の命は自分で守り助けが必要な人を地域で守る」をテーマに、パネルディスカッションを行いました。

問合先　危機管理課☎(275)6247

-基調講演-

兵庫県立大学大学院
減災復興政策研究科教授
阪本　真由美氏

避難は情報をよく見て自分自身で判断する

～情報と避難を結びつける～

今年５月に災害対策基本法が改正され、警戒レベル４の避難指示が発令されると、危険な場所から全員避難することになりました。避難情報が出る前に情報を収集し、自身で安全が確保できるように備えておくことが大切です。

被災地での調査によると、若い世代は情報に敏感であり、取得した情報から危機を感じ、避難行動につなげることができますが、高齢世代は情報が危機意識に直結しにくく、家族やご近所からの声かけが避難行動につながることが分かっています。全国的に近隣住民でグループを作り声かけをする仕組みも検討されています。

～どこが安全か日頃から考える～

総合防災マップには危険な場所が示されており、読み解くことが大事です。自分の家に危険が及ばないかを確認し、危険な場合はどこに逃げるべきかを日頃から考えておきましょう。

～コロナ禍での避難を考える～

コロナ禍での避難所運営については、避難所に感染症を持ち込まない、感染させない事が重要です。避難所の受付で体調不良の方を振り分けたり、避難所内で人と人とが距離をとれるように区分けする必要があります。「新型コロナウイルス避難生活お役立ちサポートブック」という冊子がインターネットに掲載されていますので、参考にしてください。

新たな避難情報と警戒レベル

-パネルディスカッション-

助けが必要な方を地域ぐるみで守る

福井副市長：危機管理の基本は、災害を正しく恐れることです。どのような災害でどのような危険が自身にふりかかるのかを総合防災マップなどで確認してください。次に自分の命を守るために情報を収集し、勇気を持って躊躇（ちゅうちょ）無く避難行動をとってください。そして、余裕があれば助けが必要な方を地域ぐるみで守り、多くの命を助けてください。このような取り組みを地域の地区防災計画として取りまとめ、皆が同じ認識を持つことが重要です。

高石副市長
福井　淳太

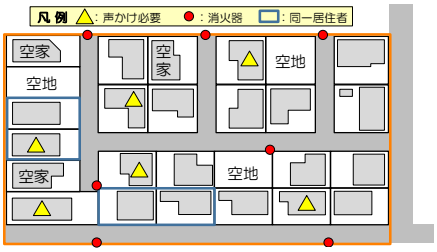
河野氏：バカンマップは、避難所の開設状況や、４段階での混雑状況が地図上で把握できる災害時の支援ツールです。コロナ禍では「密」状況の把握が重要になるため、ぜひご活用ください。一人ひとりに「自分の命を守る行動」をとってもらい、その上で助けが必要な人には地域ぐるみで支える仕組みづくりを私も一緒に実現していきたいです。

（株）バカン代表取締役
河野　剛進氏

バカンマップ（イメージ）

山路氏：私の自治会では、総合防災マップの配付を契機に、市の防災担当にも相談しながら、地区防災計画の一項目として『声かけマップ』を作成しました。これは、災害時に声かけの必要がある方がどこに住んでいるのか、一目でわかるものです。このような計画を自治会の役員だけでなく、地域の住民一人ひとりが理解し、同じ行動をとれるようにすることが、地域で助けが必要な人を守ることにつながると思っています。

平坂荘園自治会
自主防災会代表
山路　駒子氏



※個人情報保護のため、仮想の地区で例示しています。

声かけマップ

鈴木氏：地区防災計画に基づく取り組みを進めるためには、若い世代の力が大切です。平時からだんじり祭などで若い世代とのつながりを持ち、色々な話をする中で防災の話をするなど、関心を持ってもらうための工夫をしています。また、「向こう三軒両隣作戦」と名付け、平時からご近所どおしが声かけをしながら動くことを習慣づけています。さらに、災害時に玄関にタオルをかけることで安否確認ができるように、鉢巻きタオルの配付も考えています。常に課題を出し、検討を続ける地域づくりを心掛けています。こうした取り組みの継続により、まち全体の防災意識を高めていきたいと思っています。

第13区東羽衣自治会
自主防災会代表
鈴木　保氏

第11回　高石市地震・津波
総合避難訓練

11月5日(金)

問合先　危機管理課☎(275)6247

津波避難訓練（鴨公園へ）

対象区域	津波浸水想定区域内及び近接する区域（千代田・高師浜・加茂・綾園・羽衣・東羽衣・西取石の一部）

南海トラフ巨大地震が発生すると、本市では地震発生から約 100 分後に最大 5mの津波が到達すると想定されています。訓練では、大津波警報が発表されたと想定し、いち早く浸水想定区域から鴨公園をめざして高台に避難してください。また、支援が必要で浸水想定区域外への避難が難しい方は、自主防災組織と連携して、津波避難ビル等に避難してください。

直下型地震訓練（取石小学校へ）

対象区域	取石小学校区

上町断層帯による直下型地震では、「同時多発火災」による被害が想定されています。訓練では、近隣で火災が発生したと想定し、火災から身を守るため、最寄りの指定緊急避難場所へ避難してください。取石小学校運動場では、小型ポンプを使用した初期消火訓練を実施します。

体験しよう！

実施場所	総合体育館、取石小学校体育館

コロナ禍を想定した避難所開設訓練に加えて、総合防災マップで紹介しているバカンマップなどの災害時に活用できるサービスについて展示を行います。

バカンマップ（イメージ）

▲
バカンマップはこちらのQRコードから

お願いします！　訓練にあたっての新型コロナウイルス感染症対策について

皆さまに安全・安心にご参加いただくため、事前に自主防災組織や参加事業所等で参加申し込みをしてください。個人参加の場合は会場で名簿にご記入ください。

避難行動中は周囲の方と十分に距離を保って移動してください。また、訓練中に体調が悪くなった場合等は、列から離れ、マスクを外すなど、無理のない行動を意識してください。

総合体育館及び取石小学校体育館では、混雑の状況により入場制限をさせていただく場合がございますので、あらかじめご了承下さい。